

令和元年度 流山市立西初石中学校 学校評価【自己評価】

1 本年度の学校評価のあゆみ

- 4月 1日 職員会議において、「学校経営方針」を示す
- 4月 5日 始業式において、生徒に「学校教育目標」を示す
- 4月 保護者会、入学式において、保護者、新入生に「学校経営方針」を示す
- 6月26日 西初石っ子を育てる会及び西初石中学校地域教育会議において、地域の方々に「学校経営方針」を示す
- 1学期末 「教職員アンケート」「生徒アンケート」にもとづき、職員による1学期の学校経営方針にもとづいた教育活動について、評価を行う
- 9月 2日 職員会議において、職員に「2学期の経営方針」を示す
- 10月 7日 西初石中学校学校関係者評価委員会を立ち上げ、第1回の委員会を開催する。学校経営方針を示し、これまでの自己評価及び2学期の学校経営方針を報告し、各委員よりご意見をいただく。
- 11月 7日 「保護者アンケート」「生徒アンケート」「教職員アンケート」を実施する。
- 11月22日 教育課程検討会（学年別）を開き、諸アンケートにもとづき、自己評価を行うとともに、3学期での改善方法や次年度での教育活動の進め方について検討する。
- 11月27日 教育課程検討会（運営委員）を開き、学校経営方針にもとづいた教育活動について、評価を行い、3学期での修正、改善方法を検討すると同時に、次年度の教育課程の編成について検討する。
- 12月23日 教育課程検討会（全職員）を開き、本年度の自己評価を行うとともに、3学期での修正、次年度の方針を検討する。
- 1月 ミドルリーダー研修会から提案されたSDGsやESDの取組を「総合的な学習の時間」を軸とした教育課程の編成（カリキュラムマネジメント）に向け、研究部、教務部、ミドルリーダー研修会で調整を始める。
- 1月30日 第2回西初石中学校学校関係者評価委員会を開催し、自己評価を示し、評価を頂く。
- 2～3月 次年度の教科、領域等の年間指導計画を作成する。（教育課程編成）

＊第三者評価については、細野隆彦氏に委嘱している。同氏は行事等の折に来校し、学校の状況を観察、評価いただいている。2月に「自己評価」「学校関係者評価」の結果を報告し、3月に第三者評価を頂く予定となっている。

2 本年度の学校評価に係る主な変更点

・学校関係者評価委員会の設置

西初石中学校地域教育会議を発展的に解消する。同会議で行っていた「学校評価」を「学校関係者評価委員会」で行い、「地域等への学校公開や評議」については「教育ミニ集会」（11月19日開催）に代えることとした。

＊次年度以降の「教育ミニ集会」について

西初石小学校と合同で実施する。会場は、隔年ごとに小学校と中学校とする。
（令和2年度中学校で。3年度小学校で。）

・教職員アンケートの毎学期の実施

・学校評価及び教育課程検討会のスケジュール変更

11月末までに自己評価を行い、12月から「3学期での修正」及び「次年度の教育課程編成」に取りかかることとした。

3 本年度の自己評価

赤字：課題

青字：成果

【学校教育目標及び目指す生徒像について】

学校教育目標：「自立 貢献」

目指す生徒像：・自分の行いに責任を持ち、確かな知識や技能のもと、

自分で判断し行動することができる生徒

・自分以外の人や社会に自分の力を役立てることができる生徒

＊「自立」について

・教員の取組は充実している。

・生徒が実感できるような「指導」が必要になるであろう。

その基本は「授業」や「学級」「学年」にある。「責任」「知識・技能」

「判断」「行動」を求める「教科経営」「学級経営」「学年経営」が必要。

次年度は、「学校経営方針」を具現化する具体的方法を記す各経営案となるように様式変更を行う。

＊「貢献」について

- ・生徒の取組は成果がある。

「貢献隊」や「委員会」等の活動

- ・教員全体としての、取組や指導を進めることが課題であろう。

ミドルリーダー研修会の参加メンバー（８名）が企画・運営している。メンバー以外の職員のかかわりが少ない。

次年度は「教育課程への位置づけ」「校務分掌の工夫」等、指導の進め方を改める。

【育てる資質・能力について】

探求力 コラボレーション力 共生力 自立力 情報活用能力 創造力
～内省的思考～

- ・教員の指導状況と生徒の状況は、概ね合致している。生徒の弱い部分は、教員の指導の弱さでもある。
- ・強みである「コラボレーション力」「自律力」及び伸びてきている「創造力」はさらに充実させていきたい。
- ・もっとも低い「情報活用能力」の伸長を図りたい。図書室やＰＣ室の活用はもとより、情報を組み立てるような「論理的思考」を育てる授業の実践等に取り組みたい。
- ・「探求力」は２番目に低い。大きな課題は「教科指導において、課題についての考えを文字でまとめたり、言葉で伝えたり、聴いたりする力」について教員の評価（高評価）と生徒の評価（低評価）が乖離している点である。これは本年度の研究テーマでもあり、研究の迫り方や授業改善について見直しを迫るものである。保護者の評価も「授業」「個別指導」「キャリア教育」は低評価である。本校の大きな課題である。

【重点目標について】

教科領域の充実 活動等領域の充実 内省的思考の充実 学校組織機能の充実
学校・家庭・地域の同軸化の推進

- ・職員アンケートによると、多くの項目で１学期より２学期の方が、評価が下がっている。しかし、「諸行事への取組」「貢献隊の活動」「授業研究」「ミドルリーダー研修」「学校評価をもとにした教育課程検討」等、職員の取組は充実している。生徒の活動も積極的であった。この評価結果は、むしろ教職員の意識の高まりと捉え

たい。しかし、ここからがスタートであり、今後一層の充実を図っていきたい。

- ・「教科領域の充実」「学校・家庭・地域の同軸化の推進」が1学期からの継続の課題である。
- ・「活動等領域の充実」が強みである。

【学校経営について】

- ・「組織マネジメント」

「いじめ対策委員会」「生徒情報の共有」「主任会と生徒指導部会の分離」等の組織化を進めてきている。更なる組織対応を今後も進めたい。

- ・「財務」

予算執行状況が適切である。予算委員会による次年度の予算作成も進行中である。

- ・「開かれた学校づくり」

学校全体での地域連携を進め、全職員のかかわりを広げる必要がある。

- ・「安全対策（危機管理）」

組織で対応する学校体制づくりを、更に進めることが大切である。

上記2点は、教員の評価が低いものであるが、それは高い意識の裏返しであろう。

引き続き、組織対応を進め、信頼される学校づくりに取り組みたい。

【「持続可能な社会づくり」及び「社会に開かれた教育課程」について】

（1）本校の地域連携の現状

「地域貢献活動」「異校種交流」「地域交流」等をとoshi、学校を核としながら人や諸機関の連携深め、西初石地区づくりや地域にかかわる人材の育成を進めてきた。

特に「地域貢献」は学校目標の柱でもあり、積極的に活動を展開した。「清掃活動」や「幼児や小学生等との交流」「高齢者との交流」「地元行事への参加」「募金活動」など、環境、福祉分野での活動に取り組んだ。

この活動の推進にあたっては「自治会」や「社会福祉協議会」等との連携や、「地域学校協働本部」によるボランティアのコーディネートが大きな力となった。1月現在のべ374人のボランティア（内、地域人材はのべ213人）参加を得ている。

（2）地域等との連携を進める上での留意事項

①教育活動について説明責任を果たす

- ・情報発信

②学校評価を軸としたPDCAサイクルが機能する学校体制を構築すること

- ・自己評価（保護者・生徒・教員アンケート）（2学期末）
- ・学校関係者評価委員会の立ち上げ（学期1回）
- ・第三者評価の実施
- ・教育課程検討委員会（2学期末までに実施）（3学期の修正・次年度計画）

③地域等との意見交換や目標共有の場を設定すること

- ・教育ミニ集会（地域教育会議の発展的解消）

④地域コーディネーターとの連携

（3）「地域貢献」から広がる「持続可能な社会づくり」への取組

人材育成を目的とした中堅教員対象の「校内ミドルリーダー研修」を立ち上げ、学校経営方針の具現化を推進するための自主プロジェクトを推し進めてきた。

活動していく中から、「地域貢献」や「地域づくり」を進めていくことは、「SDGs」や「ESD」に取り組むことであるという方向性にたどりついた。「総合的な学習の時間」を軸にした横断的な学習に取り組む必要性にも気づき、教務部や研究部も巻き込んだ教育課程づくり（カリキュラムマネジメント）に取り組み始めたところである。年度内に「SDGs」「ESD」に先進的に取り組んでいる方を講師に招き、理論研修を行う計画をしている。

（4）異校種との連携

地域の保育園・西初石小・流山おおたかの森高・学童保育との交流や連携を推し進めている。流山おおたかの森高校と連携のある麗澤大学や聖徳大学、東京理科大学との連携も模索できると勝井校長からの助言をいただいている。

現在、具体的には西初石小と「総合的な学習の時間」での連携を検討している。また、けやきの森保育園との交流保育も2月に計画されている。昨年度末には、学童クラブとの交流クリスマス会を行い、学校に関わらず、子供にかかわる機関との連携を進めている。今後も「貢献活動」や「交流」等、さらに連携を深めていきたい。